

『大宮駅東口周辺公共施設再編／公共施設跡地活用全体方針(原案)』に対する 市民・専門家参加に基づいた提案書

UDCO「アーバンデザインセンター大宮」では、さいたま市により公表された「大宮駅東口周辺公共施設再編／公共施設跡地活用全体方針(原案)」を受けて実施したPublic Involvement: 市民・専門家参加「市民との対話、専門家へのインタビュー、多世代のアンケート等」に基づき、大宮駅東口公共施設再編を契機として大宮のまちの価値をさらに高めていくための提案を致します。



平成30年2月26日

UDCO「アーバンデザインセンター大宮」

センター長 工藤和美「東洋大学教授」

副センター長 藤村龍至「東京藝術大学准教授」

内田奈芳美「埼玉大学准教授」

都市戦略

1 世界の中の大宮

「大宮らしさ」を位置づける都市戦略、対流拠点としての役割の明確化

- これからの大宮は、まず「大宮らしさ」を打ち出し、東日本という限られた範囲ではなく、世界の中でその「大宮らしさ」をどう位置づけるか、ということを考えていく必要があります。
- 世界、日本、東日本、首都圏、さいたま市という各スケールの中で、大宮らしい都市戦略を行政が打ち出すことが求められます。
- その中で、「東日本の対流拠点」の意味・役割を明らかにし、さらに「大宮らしさ」を醸成していくべきです。

公民連携によるプロセス

2 開かれたプロセス 開かれたプロセスによる主体的な市民参画と地域づくりの担い手育成

- 市民との情報共有にとどまらず、市民が主体的にプロジェクトに参画することが重要です。
- そのためには、行政が制約条件や意思決定の理由を明らかにし、かつ、参加者が偏らない工夫を行いながら、開かれたプロセスで進めていく仕組み作りが必要です。その際に、常に最先端の知識や事例を取り入れながら、企画・検討の議論が平準化しないための配慮も求められます。
- それが大宮の次世代の地域づくりの担い手育成にもつながっていきます。

3 民間との対話 民間事業者の提案・参画意欲を引き出す仕組み作り

- 公民連携では、早い段階から民間事業者の意見や提案、そして事業参画への意欲をいかに引き出すかが重要です。
- 民間事業者の提案の中に盛り込むべき要件を行政が明らかにし、民間の意見・提案を引き出す仕組み作りや、適切な段階での開放型・閉鎖型を組み合わせたサウンディング(民間事業者との公募による対話)等の意見聴取の実施、民間提案制度等を活用していくことが重要です。

4 プロジェクトチーム 産官学民の連携によるプロジェクトチーム編成の検討

- 各拠点のプロジェクトを進めていく上で、複合した都市機能やプログラムが想定されるため、多彩な知見を取り入れつつ、行政の関係課との調整を図っていく必要があります。
- 今後設置するプロジェクトチームは、さいたま市の関係各課を横断した体制をベースに、コーディネーター・専門家・事業者を柔軟に取り入れてプロジェクトを推進していく実働体制を組織することが望まれます。
- また、3つのプロジェクトの調整機能を強化し、相互に連携を図ること、そしてそこから周辺地域への事業・活動波及を目指すことが必要です。

プログラム

＝主体・手法・計画・運営の動的なつながり

5 プログラム先行 公益性を踏まえた都市マーケティングによるプログラム作りから施設整備へ

- 公共施設再編では、施設整備のみが目的ではなく、その施設が多くの方に利用されることが重要です。
- そのためには、供給者及び利用者ターゲットを見定めたまちづくりの戦略となる都市マーケティングを組立てながらプログラムの検討、与条件の整理を行い、それに見合う施設整備へと移行すべきです。
- プログラム検討の際には、地域への公共サービスと、産業・民間マーケティングとのバランスを十分に検討して明らかにする必要があります。
- また、行政としては民間提案も活用しながら十分な公共サービス提供に向けた税収を上げる仕組みをしっかりと作っていくべきです。

6 柔軟な計画づくり 変化する社会、漸進的開発に応じた柔軟な軌道修正が可能となる計画づくり

- 数年で大きく変化する社会・経済情勢や、漸進的な開発に応じて柔軟に軌道修正が可能な計画づくりを求められます。
- そのためには施設整備後の資金計画や暫定利活用、段階整備計画等を含めて、いくつかのパターンを並行して検討する必要があります。

空間の質

7 魅力的な都市空間 大宮らしい空間の質を担保する仕組みづくり

- 大宮の価値を高めていくためには、魅力的な都市空間を形作する必要があります。
- まちづくりの具体化に伴い、実際に整備される施設が、プログラムに見合った空間の質を担保するための仕組み作りを行う必要があり、空間の質を評価する指標の確立、デザインガイドラインの作成などの仕組み作りが考えられます。

地域内ネットワーク

8 3つの軸の役割 点から線へと繋げる 3つの軸の役割と機能の更新

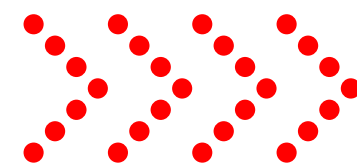
- 2010年にさいたま市より公表された「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」で示された3つの軸(東西シンボル軸、賑わい交流軸、歴史文化軸)の方針は、公共施設再編や他のまちづくりの方針に合わせて新たな役割が生まれてくると考えられます。
- 面的なまちづくりと並行して、3つの軸の新たな役割や機能を更新していく必要があります。

9 まちづくりプラットフォーム (媒介) | 大宮駅を中心とした東西まちづくりのプラットフォームづくり

- 大宮駅周辺で進めている様々なまちづくり(公共施設再編による連鎖型まちづくり、大宮駅グランドセントラルステーション化構想、大宮駅西口周辺まちづくりなど)について、それらを相互に関連付けながらエリア全体の価値向上を目指していく必要があります。
- そのためには、それらを関連付けるプラットフォームとなる仕組みづくりを意識して進めていくことが重要です。

10 防災力の向上 広場・緑による総合的な防災力向上

- 東京都心のバックアップ機能を兼ね備えた都市として、大宮の防災力向上が求められます。
- そのためには、強靱な建物を建設するということだけでなく、一定規模の広場・緑を位置づけていながら、大宮全体の都市再生による総合的な防災力の向上が必要となります。



上記を踏まえ、3つの地区「駅前賑わい拠点、地域連携拠点、氷川神社周辺エリア」について、今後検討を進めていくにあたり大切にすべき考え方を示します。

「駅前賑わい拠点」

- コミュニティの核として多世代をつなぐ役割。
- 公民連携によるまちに開かれた文化・教育拠点の形成。
- プロジェクトの区域設定、大宮小学校の整備方針を早期打ち出し。
- 東西シンボル軸、歴史文化軸、氷川緑道西通線との一体性やつながりの形成。

「地域連携拠点」

- 山丸公園・新区庁舎との一体的な利活用、および、連動した広場の組み合わせによる防災機能向上。
- 大宮駅とさいたま新都心駅との人の流れを促進し、居場所となる場づくり。
- 歴史文化軸、氷川緑道西通線との一体性やつながりの形成。

「氷川神社周辺エリア」

- プログラムと連動した、神聖な場所としての価値とそこにふさわしいにぎわい、住環境の共存が図られた、静かなる賑わいの風景の形成。
- 氷川参道周辺のデザイン・機能・利活用のマネジメント。
- 大宮駅グランドセントラルステーション化構想などの周辺のまちづくりや賑わい交流軸とのつながり。

